

令和5年度「生活者としての外国人」のための特定のニーズに対応した日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム】

実施内容報告書

団体名：一般財団法人ダイバーシティ研究所

1. 事業の概要

事業名称	「生活者としての外国人」のための文字学習支援～ヘルスリテラシーの試みと実践～
日本語教育活動に関する特定のニーズの実情や課題	「生活者としての外国人」は、長く日本に在住し日本語の口頭言語能力は習得できているものの、書字言語能力が不十分なため社会参加が満足にできない人が少なからず存在する。申請者らは、在住外国人を対象として、生活に密着した文字や語彙、リテラシーの教育を長く行ってきた。それらの教育実践のなかで、学習者が特に困難を感じていることが明らかになったテーマの一つが「ヘルスリテラシー」である。 厚生労働省 eJIM の Web サイトによると「ヘルスリテラシー」とは健康に関する様々な情報を「理解し、活用する能力」のことである（厚生労働省 eJIM 医療者と患者のコミュニケーション：ヘルスリテラシーを手がかりにして コミュニケーション 「統合医療」情報発信サイト (ncgg.go.jp) 2023.2.12 閲覧）。ヘルスリテラシーは、生命の維持にかかわる最も重要なものである。医療についての知識、自身の健康について伝える言語表現、文字情報収集能力など、リテラシーの有無が大きく問われる。ヘルスリテラシーを有していないことによる弊害は大きく、健康な生活を送ることに大きな障壁となるため、その習得を目指した文字教育、リテラシーの教育が必須である。さらには、近年のコロナ禍という未知の状況においては、新たな情報収集の方法や制度等の利用が求められたが、それにアクセスできない外国人も数多く見られた。これらの課題を解決し、質の高い生活を送るためにもヘルスリテラシーの獲得が必要不可欠であると考えられる。
事業の目的	事業の目的 日本に定住する予定の外国人、または既に地域に根ざしている外国人を対象に、ヘルスリテラシーを取り入れた漢字教室を実施する。また、ヘルスリテラシー／ヘルスケアの専門家、地域日本語教育に関わる実践者とともに、実践と課題を共有する公開講座を本事業の報告会を兼ねて行う。本事業は、これまで漢字学習支援を行ってきた実践と実績が根底にあり、さらに文字学習支援の場にヘルスリテラシーの観点を取り入れようとする新たな試みであり先進的な事業である。 以下に4つの取組と目的を説明する。 取組 2-1: 健康に暮らすための「生活の漢字教室」 これまでの事業では、生活の場面で目にする文字（漢字）の習得を目指し、「買い物」「病院」「災害」などをテーマに漢字教室を実施してきた。令和5年度は、これまでの文字学習支援のなかで「ヘルスケア」に関するトピックを中心にカリキュラムをデザインする。例えば、これまでも「買い物」をテーマにアレルギーや食品成分などの漢字語を取り上げていたが、各回の授業において健康に関連した漢字語を扱い、自身の健康に関する情報を得て活用し、病気を予防し健康的な生活を送れるよう漢字学習を通して支援する。 取組 2-2: 子育て中の外国人のためのオンライン漢字教室 保育園・幼稚園・小学校において必要な漢字語を理解し活用できるよう子育てに特化した漢字学習支援を行う。また、漢字語を理解することで、子どもが健康的に生活できるよう支援をしていく。オンラインで授業を実施することにより、子育てというライフステージに合った学習の機会の提供を実現する。2年前に立ち上げた本取組のシラバス、授業内容、教材などのさらなる改善を行うが、令和5年度の新たな取り組みとして、親子で参加できる交流イベントを実施する。 取組 2-3: 地域に根付く「生活の漢字教室」(神戸) 大阪市で継続してきた漢字学習支援の教室を神戸市で新たに実施する。毎日の生活で目に

	する漢字語の意味理解は、生活を安心して、安全にまた健康に過ごす上で大変重要である。そのため、学習者が日々の生活で漢字から情報を得て、スムーズに生活できるように文字学習支援を目的とする。 (公財)神戸学生青年センターと連携して、令和6年度年度以降の「生活の漢字」教室の新規開講を目指す。 <u>取組3:「生活者としての外国人」のためのヘルスリテラシー～共に課題を共有し、今後に繋げるための参加型報告会～</u> 漢字教室の実践と成果を広く発信することを目的に「ヘルスリテラシーと日本語学習支援」という観点からリテラシー教育の必要性を考える。同時に、当事業の報告の場ともし、漢字教室の実践と成果を広く発信する。
事業内容の概要 (課題をどのように解決したのか、どのような点が先進的な取組であったのか分かるように記載)	課題1: 地域の日本語教育において文字学習の必要性がまだ十分に認識されていない。 課題2: 地域日本語教育の現場において、ヘルスリテラシーの重要性は認識されていても、教育実践には結びついていないのが現状である。 上記課題に対する解決方法と先進性 課題1について: 漢字を学びたいが難しくて大変そうというイメージや学習方法がわからないなど、在住外国人の漢字学習に対する困難があることから、漢字教室を3教室実施した。「健康に暮らすための『生活の漢字教室』」は平成18年度より継続してきた生活の漢字教室の活動であり、今年度も継続して実施することができた。「子育て中の外国人のためのオンライン漢字教室」では、子育てに特化した漢字教室が少ないことや、子育て中は日本語教室に参加するのが難しいなどの現状に対し、オンラインで漢字教室を実施した。またオンラインの地域日本語教室における交流の在り方の1つとして、対面で交流イベントを行ったことも新たな試みであった。「地域に根づく『生活の漢字教室』(神戸)」では、漢字学習を積極的に取り入れた日本語教室が開催地域周辺になかったため新たに教室を立ち上げ、今後も地域に根ざしていく教室となる足がかりを築くことができた。 課題2について: これまでの活動で蓄積された実践に基づくノウハウを基に、新たにヘルスリテラシーの観点を取り入れたシラバスを作成し、3教室において実施したことは先進的な試みであった。他地域の日本語教室においても病院などをテーマに扱っているが、本事業ではコース全体を通してヘルスリテラシー、つまり健康に関する様々な情報を理解し、活用する能力を獲得することを目的に漢字教室を行った。さらに成果の発信と普及活動として国内外から専門家を招き、生活者としての外国人のためのヘルスリテラシー、及び実践について報告会を開催したことも、地域日本語教育の分野において先進的な取り組みであったと言える。
事業の実施期間	令和5年5月～令和6年3月(11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営等委員会

実施体制	構成員の人数:10人 構成員の主な属性や専門性: 属性…国際交流協会、生涯学習センター、部落解放・人権研究所、大学教員など 専門性…NPO活動・外国人の生活支援・多文化共生、識字教育・人権保障、言語文化学、生涯学習、日本語教育・社会教育など 運営方法:開催時・中間時(オンライン)・終了時(対面・オンラインのハイブリッド)
------	--

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	大阪市立総合生涯学習センター:運営委員会への参加、漢字教室開催場所確保、広報や問い合わせ申し込み受付等運営管理面、学習者の相談に対する大阪市内の地域日本語教室の紹介など 大阪市教育委員会:「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」との連携を打診、教育委員会が統括する大阪市内の識字日本語教室への広報協力依頼 (公財)とよなか国際交流協会等運営委員が所属する団体や関係団体:広報協力 (公財)神戸学生青年センター:漢字教室開催場所確保、広報協力
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

実施体制	事業全体:★川崎、高詰、齋藤、小野木、掛橋、御子神、新矢、新庄 漢字教室(健康に暮らすための生活の漢字):★高詰、新庄、川崎、小野木、御子神、新矢、齋藤、掛橋、木村、仙太 漢字教室(子育ての漢字):★川崎、小野木、新庄、高詰、木村、仙太 漢字教室(地域に根づく生活の漢字・神戸):★齋藤、小野木、掛橋、川崎、仙太、Victoria Smolskaya 取組の成果の発信:★新庄、新矢、掛橋、齋藤、御子神、川崎、小野木、高詰、木村、仙太 会計事務:小野木、齋藤 (★はコーディネーター) 補足説明: コーディネーターについて 役割は、取組ごとの企画運営のとりまとめ、外部交渉、広報、各取組や受講者の状況把握、問題が発生した場合の対応、会議の開催などである。よりよい事業運営方法を検討した結果、取組ごとのコーディネーターを配置している。定期的に会議などで連携をとりながら1つのチームとして本事業を実施できるよう調整した。
------	--

3. 各取組の報告

運営等委員会の設置 【名称：取組1.「生活の漢字」運営委員会】	
取組の目標	地域の日本語教育や外国人支援の現場を担うそれぞれの専門家として、本事業が適切に運営できるよう以下の内容について評価・助言などを行う。 ・企画内容や当該事業の目標、事業実施について助言する。 ・必要な場合、課題やニーズへの情報を提供する。 ・各取組中は取組内容の報告や問題点についての助言を行う。 ・各取組終了時に受講者・参加者を対象に実施するアンケート結果について評価し、問題点を明らかにし、解決、改善できるよう検討する。 ・事業終了時には、各取組の成果を評価する。 ・随時事務局からの報告を受けて、事業を客観的に監視するとともに、相談に応じる。
内容	第1回 事業開始時:目標、課題、ニーズ、事業計画の検討・助言等 第2回 事業中間報告:事業経過の報告、目標達成についての検証、課題の見直し、助言等 第3回 事業終了時:事業報告、目標達成・結果と効果を検証し、次の活動の改善へとつないだ。

本取組により検討された事業の方針や特定のニーズに対応した日本語教育の方向性		・「健康に暮らすための『生活の漢字教室』」の広報について、これまでのネットワークを活かし広報を実施してきたが、さらに外国人に情報を届けるためにどうすれば良いか相談した。これについて他の団体や飲食店や教会、モスク、食材店などの提案を受けた。 ・委員が所属している団体等におけるコロナ後のオンライン教室の状況について質問した。これに対し、コロナ後も一定の参加者がいること、ニーズがあることを確認した。 ・「子育て中の外国人のためのオンライン漢字教室」交流イベントについて助言を受けた。 ・R6 年度以降の運営方法について助言を受けた。	
実施期間	令和 5 年 7 月 25 日 から 令和 6 年 3 月 18 日 まで	開催時間・回数	1 回 1 時間×3 回 =3 時間

特定のニーズに応じた日本語教育の実施 【名称：取組 2-1. 健康に暮らすための「生活の漢字教室」】			
取組の目標	日本で永住しようと考えている外国人や地域社会の一員として生活をしている外国人に対し、地域日本語教育の専門家が日常生活、社会参加、ヘルスリテラシーの観点から漢字教育を実施することで、多文化共生に資することを目的とした。		
内容	1.地域に根ざして生活する外国人及び、日本に永住したいと考えている外国人に対して、地域日本語教育の専門家が漢字(文字)教育を実施した。 2.「衣食住」のうち「食住」および「医」に必要な漢字(文字)をヘルスリテラシーの観点から取り上げ学習した。 「食」…取り組み事例①参照 「住」…取り組み事例②参照 「医」…市販薬の服用時や医療機関の受診時に必要となる漢字語の学習を行った。また、感染症予防の観点から、学習者の居住地域での予防接種実施情報を検索する活動を実施した。 3. 元学習者が補助者として教室活動に参加し、よき理解者・指導者、またロールモデルとして活躍することで、受講者にとって社会参加の場、継続した学びの場となるよう働きかけた。 4. SNS を通じて活動の様子を発信することで、文字学習支援の実践の普及に努めた。 カリキュラム内容 1. 開講式 2. 買い物①(さがす) 3. 買い物②(選ぶ) 4. 災害①(災害速報の漢字) 5. 住所と名前 6. 災害②(防災グッズ・フィールドワーク) 7. 薬(症状、用法、用量など) 8. 病院(診療科、予防接種、問診票など) 9. まとめ 10.閉講式		
取組による特定のニーズに対する工夫	日本語教育・漢字指導の専門家が生活者に適した漢字学習のシラバス・カリキュラムを作成し、適切な漢字学習支援を行うことで、生活場面やヘルスリテラシー獲得に必要な漢字を体系的に、負担を軽減し学べるよう工夫した。		
実施期間	令和 5 年 9 月 5 日 から 令和 5 年 11 月 7 日 まで	授業時間・コマ数	1 回 2 時間 × 10 回 = 20 時間

対象者	簡単な日本語の会話ができ、ひらがな・カタカナがある程度分かり、漢字を学びたいと思っている外国人	参加者	総数 39 人 (受講者 29 人、指導者・支援者 10 人)
日本語教育の言語技能とレベルについて	「聞くこと」「話すこと」についてはレベルを限定せず、指導時はレベル差に配慮して学習を進めた。「読むこと」「書くこと」については生活場面で見える漢字を取り上げるため、A1～B2 レベル程度の言語使用場面において読み書きする漢字語を受講者の必要に応じて学習することになる。漢字語の選定には「基礎漢字」を参考にした。		
日本語教育の対象とする生活上の行為について	【Ⅰ 健康・安全に暮らす】 01 健康を保つ 0101 医療機関で治療を受ける 0101020 症状に合わせて適切な病院・医院を探す 0101040 インターネットで検索する 0101080 開院時間を確認する 0101100 診療所の看板を確認する 0120 問診表に記入する 0102030 問診項目を理解する 0102060 名前を記入する 0102070 住所を記入する →5.住所と名前 8.病院 02 薬を利用する 0202 薬局・薬店を利用する 0202080 市販薬を選択する 0202090 薬の説明書きを理解する 0203 薬の説明を理解し、適切に利用する 0203080 説明書きの「効能、用法、注意」の説明を理解する 0203100 薬の服用方法の指示に従って服用する 03 健康に気を付ける 0301 病気を予防する 0301030 常備薬を利用する 0301040 健康診断・予防接種の情報を入手する →7. 薬 8.病院 05 災害に備え、対応する 0501 避難場所・方法を確認する 0501090 非常口を確かめる 0501100 広域避難場所を確かめる 0501110 避難経路を理解する 0502050 情報を正確に理解する →4.災害① 6.災害② 【Ⅲ消費活動を行う】 08 物品購入・サービスを利用する 0801 対面販売で購入する 0801070 売り場を探す 0801090 店内の表示を見る 0801130 値段を知る 0801150 商品の表示を読む →2.買い物① 3.買い物② 【Ⅸ自身を豊かにする】 42 日本語を学習する		

	4202 日常生活の中で日本語を学習する 4202010 日常生活での学習方法を理解する 4202100 学習方法を身につける 4202110 学習の仲間を作る →1.開講式(学習方法)、1～4.漢字の基本的な書き方 9.まとめ(好きな漢字、まとめた文章を読む、漢字の学習方法) 10.閉講式(漢字デザインのエコバッグ作成)									
使用した教材・リソース	自主作成教材									
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	1	4		2		1	3			
	ウクライナ4人 パキスタン3人 シリア3人 イギリス2人 エクアドル2人 メキシコ2人 トルコ1人 ドイツ1人									

(1) 特徴的な活動風景(2～3 回分)

取組事例①

買い物【①第2回 令和5年9月19日】【②第3回 令和5年9月19日】

健康リテラシーの向上を目指し、2回に分けて「買い物」をテーマに授業を実施した。

まず、買い物①として、食品パッケージの原材料表示とアレルギー食材に関する漢字語を学習した後、実際に食品パッケージを見る活動を実施した。次に買い物②として、食品を選ぶ際のリテラシーとして塩分や糖分表示、消費期限や賞味期限表示の漢字を学習した。その後、学習内容を行動に反映させるきっかけづくりとして、食品パッケージの塩分量比較、自動販売機のコーヒーの無糖、微糖などの甘味表示調べなどの活動を実施した。後日、学習者から砂糖不使用のコーヒーの写真が送られてくるなど、原材料や糖分への意識向上がうかがえた。

買い物①



買い物②



取組事例②

災害【①第4回 令和5年9月26日】【②第6回 令和5年10月10日】

防災リテラシーの向上を目指し、2回に分けて『災害』をテーマに授業を実施した。

まず、災害①として、限られた情報から災害時に最低限必要な安全に関する緊急速報などの漢字を学習。次に災害②として漢字教室の実施場所(大阪市立生涯学習センター)備蓄の防災グッズに記載されている言葉や漢字語の確認を行った。その後同センター内の災害に関する漢字を探しながら避難経路に従って模擬避難を実施した。実物を手に取ったり、実際に避難したりすることで、教室で学習した漢字語以外の漢字語にも意識が向き、学習者同士で災害時に必要となる漢字語を共有し合う様子が見られた。

災害①



災害②



災害②



(2) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

昨年度までの取り組みを継続しつつ、今年度は全ての学習回の目標として「ヘルスリテラシー獲得に必要な漢字を身につけること」を設定した。学習後に学習者から「砂糖不使用の飲み物が買えた。」「フィールドワーク(避難)で今まで気が付かなかった漢字に気づいた。」などのコメントがあった。また、学習した漢字語を使った活動は、理解した内容の確認のみならず学習者同士の経験や現在抱えている困りごとや不安の共有が促される学習者同士の交流の場となり、「何年も日本に住んでいるのに漢字が書けない劣等感があったが、自分だけではないと知り、気持ちが明るくなった。とても感謝している。」といった声もあった。最終日に実施した can-do 評価では、読めなくても意味が理解できる漢字が多い結果となった。

(3) 今後の改善点について

令和3年度より本事業に組み込み、今年度はヘルスリテラシーの観点からの学習支援を行った。買い物や病院などの汎用性の高い内容でカリキュラムを構成した結果、学習者には自身の健康や安全を意識した行動変容がみられた。来年度以降は、汎用性に地域性を加えることで、地域における公的制度の享受や地域社会での共生につながるようなカリキュラムが求められる。

特定のニーズに応じた日本語教育の実施

【名称：取組 2-2. 子育て中の外国人のためのオンライン漢字教室】

取組の目標	目標①：子育ての中で目にする漢字語を理解することにより、主体的に、また円滑に子育てができるようになる。具体的には、子どもの健康や病気、保育園や幼稚園、学校に関する必要な文字情報を理解し、記入や返信ができるようになることなど。 目標②：授業に参加することが、外国人保護者同士の情報交換や子育ての悩みを共有するなどができる場となるよう毎回の構成を工夫する。 目標③：オンライン授業により、子育てというライフステージ合った学習の機会を提供する。 目標④：対面形式で子育て中の外国人が集う交流イベントを開催する。
内容	各回のテーマ 1回目：こどものお菓子

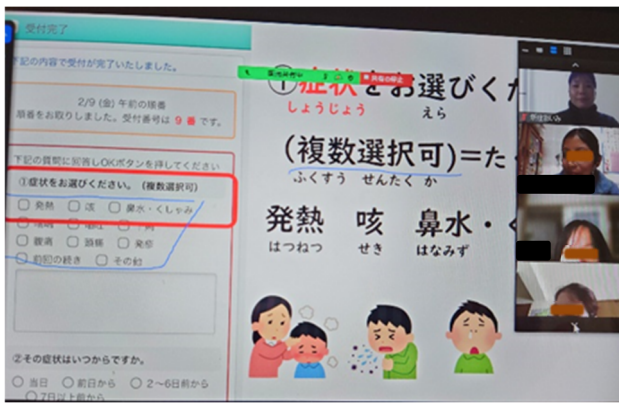
	2 回目：小学校、保育園、幼稚園の生活、ベーシックストローク1 3 回目：交流イベント(3回目のみ対面で実施) 4 回目：病院のオンライン予約、ベーシックストローク2 5 回目：Web 問診票、ベーシックストローク3 6 回目：住所、ベーシックストローク4 7 回目：まとめ		
取組による特定のニーズに対する工夫	以下の3つをニーズとし取組を実施した。 ニーズ①：外国人保護者が子育てに必要な漢字を学ぶための学習支援の場の不足 ニーズ②：子育てというライフステージに合った ICT を活用した学習方法の提供 ニーズ③：外国人保護者が気軽に参加できる交流の機会の提供 ニーズ①について 日本で子育てをする中で、文字(漢字)から情報を得ることは必要不可欠であり、また漢字学習は自然習得が難しく支援が必要である。しかしながら現在のところ子育てに特化した漢字学習を目的とした教室は少ない。そのため子育てで必要な漢字を理解し日本での子育てがより円滑に行えることを目的に漢字教室を行った。 ニーズ②について 子育て中は子どもの世話や仕事などが優先することが多く、日本語学校や地域の日本語教室に参加するのが容易ではない。オンラインで開催することにより移動時間や、幼い子どもを連れての移動などの問題が解決される。また子どもの世話をしながらの参加も可とし、欠席者には授業の録画を配信することにより、子育てというライフステージにあった学習機会を提供できたと考えている。 ニーズ③について 子育て中は社会との関わりが減り孤立しがちであるため、他者との交流や相談、情報交換の場が必要である。これまでの授業でも、受講者同士が自由に話せる時間は設けてはいたが、対面と比べると受講者同士のコミュニケーションが発生しにくく、地域の日本語教室としても重要な交流や居場所としての機能が十分に果たされていないと感じていた。そのため、今年度は受講者同士の交流を目的としたイベントを対面で実施した。		
実施期間	令和6年1月16日 から 令和6年2月27日 まで	授業時間 ・コマ数	1回2時間 × 7回 =14時間
対象者	簡単な日本語の会話ができ、ひらがな・カタカナがある程度分かり、子育ての漢字を学びたいと思っている日本在住の外国人。	参加者	総数 20人 (受講者14人、指導者・支援者等6人)
日本語教育の言語技能とレベルについて	「書くこと」「理解すること」基礎段階の言語使用者 A2 レベル 扱う漢字語は「基礎漢字」及び、子育てに必要な漢字語から選定するためレベル以外の漢字も扱う。		
日本語教育の対象とする生活上の行為について	「地域における日本語教育の在り方について(報告)別冊「日本語教育の参照枠」における生活 Can do 一覧」の以下の項目を参考にした。 I 健康・安全に暮らす 01 健康を保つ (01) 医療機関で治療を受ける 0101010 選択する病院を知る 0101090 予約を申し込む		

	0102 問診表に記入する 0102010 初診受付で手続をする →4,5 回 病院、問診票 Ⅲ 消費活動を行う 05 物品購入・サービスを利用する 08) 物品購入・サービスを利用する →1 回 子どものお菓子 Ⅴ 子育て・教育を行 10 子供に教育を受けさせる (19) 幼稚園・保育所で 教育・保育を受けさせる 1901100 入園希望申請書を提出する 1901120 保育園に入園する →2 回 幼稚園、保育園、小学校の生活 1901150 小児科に行く →4,5 回 病院、問診票 (20) 小・中・高等学校 で教育を受けさせる 2002020 行事の趣旨や通知内容を 理解する →2 回 幼稚園、保育園、小学校の生活 Ⅸ 自身を豊かにする 19 学習する (41) 学習方法を身に付ける 4102030 日常生活での学習方法を理解する →7 回 まとめ、全ての回									
使用した教材・リソース	保育園、幼稚園、小学校などから実際に配布されたプリント類や、病院のホームページ、商品などを参考に、オリジナル教材を作成した。									
受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	1	2	0	1	0	0	3	0	3	0
	ボリビア(2)、ウズベキスタン(1)メキシコ(1)									

(4) 特徴的な活動風景 (2～3 回分)

取組事例①

【第 5 回 令和 6 年 2 月 13 日】 Web サイト上で小児科を予約する際に必要な問診票の記入や、オンラインで予約を取ることを目的とした回である。自宅からオンラインで予約を取り順番待ちをし、適切な時間に病院へ受診に行くという流れを第 4 回目と第 5 回目の 2 回の授業で連続して行った。 小児科の Web 予約は、病気の子どもを連れて病院で長時間待つ必要がなく、大変便利な機能ではある一方、日本語のみのサイトがほとんどである。また、患者番号や症状、順番待ちなどに関する漢字語が多く、子どもが病気になってから言葉の意味や使い方を調べるのは難しい。この授業では実際の小児科の予約サイトを参考に作成した Web 問診票に必要な事項に記入し、予約を取るという練習を行った。授業の最後に、「最近どんな症状で小児科へ行ったか」というテーマについて受講者の経験談を共有してもらい、言葉の確認や子どもの病気についての情報交換や話す時間を設けた。コロナウィルスやインフルエンザ、その他子どもの間で感染症が流行っていたため、受講者の関心度も高く熱心に参加していた。
--



取組事例②

【第3回 令和6年1月30日】

第3回目のみ外国人保護者の交流を目的としたイベント(対面)を大阪市で実施した。プログラムの内容は自己紹介、ダンス、お弁当についてお喋り、作品作り「桜」、歌などである。日本で子育て経験がある外国人メンバーが中心となり企画、司会進行などを担当し、日本人メンバーは準備や当日の運営などにおいてサポートした。

オンラインの地域日本語教室における交流の在り方を検討し続け、オンライン講座の中に対面の回を設けるという方法を試みたところ、イベント実施後のオンライン授業の雰囲気さがさらに良くなり授業中の発言が増え、参加者が定着したなどいい影響があった。

イベント実施後に行ったアンケートでは、このような交流イベントにまた参加したいというコメントなどが複数あり、参加者からも好評を得た。また、外国人保護者同士の交流にもニーズがあることなども分かった。



(5) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

本取組では前半を子どもの健康や生活、後半を子どもの病気に関連する内容をテーマに設定し、漢字教室を実施した。併せて漢字の書き方の基礎（ベーシックストローク）を4回に渡り行い、最終回には各回で扱った漢字や漢字語を振り返りながら、音読みや訓読み、部首などを体系的にまとめ、漢字学習の方法にも触れるなど、コース終了後も受講者自身が漢字学習を継続していけるような授業を行った。また、コース全体においてZoomの書き込み機能やブレイクアウトルームなどを活用し、受講者が漢字を書く時間や、テーマについて参加者同士が話し情報交換するなどの時間を設けた。これら漢字学習を通して、家族や周囲の助けを借りながらも受講者自身が子どもの生活や健康に関して、情報を理解し活用することへの足掛かりができたと考えている。

対面で実施した交流イベントの成果は、外国人保護者同士が交流を深めることができたことである。子どもについてや自分自身について話すこと、情報交換や相談などができるとは子育て中において重要であり、外国で子育てするとなるとなさらである。オンライン授業では自由な交流が生まれにくいという弱点を対面で実施することにより補強することができ、さらにオンライン授業においても授業中の雰囲気良くなり発言が活発になったこと、受講者が定着したことなどいい効果が見られた。オンラインと対面の両方の利点をうまく活用することにより、オンラインの地域日本語教室におけるコースデザインや交流の在り方の1つとして成果があったと考えている。

以上の内容により、各回の授業において4つの取組目標を達成したと考えている。コース終了時に受講者を対象に実施したアンケートでも、必要な漢字を理解することができた、また参加したいなど好評を得た。

特定のニーズの充足については本項及び「取組による特定のニーズに対する工夫」の項目に記載した通りである。

(6) 今後の改善点について

今年度は特にオンラインのメリットとデメリットの両方を改めて認識できた。対面で実施した交流イベントでは成果があったが、遠方の受講者は参加できないなどの課題もあった。また授業では特に理解や進度が遅い受講者への対応が十分にできずオンラインの限界を感じることもあった。子育て中の保護者を対象としたクラスを実施するにはオンラインという方法が適しているため、オンラインに主軸をおきながら対面をうまく取り入れ、バランスをとりながら進めていくことが必要だと感じた。他の地域日本語教室においてもオンライン講座を実施しているところが多くあるため、参考にしながら改善していきたいと考えている。

特定のニーズに応じた日本語教育の実施 【名称：取組 2-3. 地域に根付く「生活の漢字教室」（神戸）】	
取組の目標	1.地域で生活する外国人が、日常生活で文字からの情報を得たり、発信したりできるようになることを目標とした。 2.漢字語の意味と読みがわかるようになることで、生活の質が向上し、安心、安全な生活が送れるようになることを目標とした。 3.大阪漢字教室に続き、神戸市六甲地区に「生活の漢字」から学ぶ漢字（文字）教室をつくり、（公財）神戸学生青年センターはじめ、近くの日本語教室と連携を取りながら、長く地域に根差し活動を継続していける場になることを目指した。
内容	各回のテーマ 1. 漢字の書き方・カレンダー 2. 住所 3. 買い物 4. 病院 <u>第1回「漢字の書き方・カレンダー」</u> : 漢字は、どこから書き始めるのか、どう書くのかなど基本的な漢字の書き方をカレンダーにある漢字から提示し学習した。また、日常生活で目にするゴミステーションの漢字を取り上げ、実際に可燃ゴミや、プラスチック、ビン、缶などを用意し、何曜日に捨てるかを話し合った。 <u>第2回「住所」</u> : 自分の住所を漢字で書けることを目標とした。個別に住所のプリント

	を用意し、書く練習を行った。また、生活の中でよく見る「神戸」「六甲」の漢字を使い、パンフレットにある多くの情報から漢字を見つけ出す練習も行った。 <u>第3回「買い物」</u>: 生活する上で不可欠な食物の漢字、また「半額」「割引」など理解できると便利な漢字を学習した。エコバックに好きな漢字を書き、文字が持つ意味を理解した。 <u>第4回「病院」</u>: 日本で行ったことがある病院について話し合った。症状により、どの診療科を受診すればよいか、漢字からも探すことができるようにした。		
取組による特定のニーズに対する工夫	①生活者としての外国人のための漢字(文字)教育支援の場の不足に対する取組: 生活者に適した漢字学習教材を作成し指導することで、漢字の意味、使用場面を容易に理解し、漢字学習へのハードルを下げるようにした。また、理解した漢字語彙を使って、自分のことを話す、書いたものを受講者同士で共有するなどし、教室が漢字学習だけでなく人と交流する場にもなるように心がけた。 ②「生活の漢字」という日常生活で必要性の高い漢字から学ぶ学習方法の提供: ゴミステーション、スーパー、病院など日常生活で目にする漢字を取り上げ、漢字を身近に感じ、その大切さやおもしろさを実感できるようにした。 自分の住所、名前は書く機会の多い漢字であり、個別に漢字シートを作成し書く練習を行った。画数が多い漢字でも、その中にカタカナを見つけながら、文字の体形を理解することで、記憶に残りスムーズに書けるように指導した。 ③「生活の漢字」という日常生活で必要性の高い漢字から学ぶ学習方法の普及、本取組の自立: 授業は、日本語ボランティア、日本語教育関係者の見学を受け入れ、漢字(文字)教育の必要性を伝えるとともに、「生活の漢字」から学ぶ学習方法の普及に努めた。		
実施期間	令和 5 年 11 月 10 日 から 令和 5 年 12 月 1 日 まで	授業時間 ・ コマ数	1 回 2 時間 × 4 回 = 8 時間
対象者	地域在住外国人	参加者	総数 20 人 (受講者 10 人、指導者・支援者等 10 人)
日本語教育の言語技能とレベルについて	「聞くこと」「話すこと」については、特にレベルを設定せず、教室内では学習者のレベルを配慮して指導を行った。教室内指導語彙は初級レベルの受講者に合わせたものにした。生活場面での漢字を取り上げ、漢字のレベルは A1-B2 程度で読み書きを行った。漢字語の選定は「基礎漢字」を参考にした。		
日本語教育の対象とする生活上の行為について	「地域における日本語教育の在り方について(報告)別冊「日本語教育の参照枠」における生活 Can do 一覧」の以下の項目を参考にした。 【Ⅰ 健康・安全に暮らす】 01 健康を保つ 0101 医療機関で治療を受ける 0101010 選択する病院を知る 0101020 症状に合わせて適切な病院・医院を探す →4 回: 病院 【Ⅲ 消費活動を行う】 08 物品購入・サービスを利用する 0801 対面販売で購入する 0801070 売り場を探す 0801090 店内の表示を見る 0801130 値段を知る		

	0801150 商品の表示を読む →第3回「買い物」 【Ⅷ 社会の一員となる】 34 住民としてのマナーを守る 3401 ゴミ出し(ゴミの分け方)について理解する 3401010 資源再活用について理解する 3401030 ゴミ収集スケジュールを理解する 3401040 居住地域のゴミ出しについて地域の公的機関で発行している生活情報パンフレット等で確認し理解する 3401050 ゴミの分け方出し方のちらしを読む →1回:漢字の書き方、カレンダー、ごみカレンダー 【Ⅸ 自身を豊かにする】 42 日本語を学習する 4202 日常生活の中で日本語を学習する 4202010 日常生活での学習方法を理解する 4202100 学習方法を身につける 4202110 学習の仲間を作る →全ての回									
使用した教材・リソース	自主制作教材、旅行パンフレット、ゴミのレアリアなど									
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	4	0	2	0	0	1	0	0	0	0
	イギリス(1)、カナダ(1)、アフガニスタン(1)									

(7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

取組事例①

【第1回 令和5年11月10日】 1. あいさつ、自己紹介 2. オリエンテーション(来週からの授業について、注意事項) 3. カレンダー(一、二、十、土、日、月、火、水、木、金) 4. ごみカレンダー 情報から活用する <u>取り上げた主な内容</u> ・カレンダーの漢字を理解する(月日、曜日)書く ・ゴミ分別の際に使用する言葉を理解する(ビン、缶、ペットボトル、プラスチック、可燃、不燃) ・実際にゴミ(レアリア)を手に取り、収集日を確認しグループで伝え合う
--



取組事例②

【第3回 令和5年11月24日】

1. 買いもので見る漢字
2. お金(千、百、円)
3. お得な漢字
4. エコバッグをつくる(好きな漢字を選んで書く)

取り上げた主な内容

- ・食料品を買うとき見る漢字を理解する(酒、米、豆、肉、魚)
- ・知っていると便利な漢字を学ぶ(半額、割引)
- ・好きな漢字をエコバッグに書き、紹介する



(8) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

目標は、1.日常生活で文字からの情報を得たり、発信したりできるようになること、2.漢字語の意味と読みがわかるようになることで、生活の質が向上し、安心、安全な生活が送れるようになること、3.神戸市に「生活の漢字」から学ぶ漢字(文字)教室をつくり、(公財)神戸学生青年センターはじめ、近くの日本語教室と連携を取りながら、長く地域に根差し活動を継続していける場になることを目指すことであった。授業はテーマに分けて4回行い、それぞれのテーマ

で、生活者が目にする漢字を初級の学習者にも理解できるように導入、指導した。学習者は漢字の成り立ち、意味、書き方などを、授業内でやり取りをしながら、学んだ。授業内で読む、書くことを行ったあと、パンフレットから漢字を探す、ゴミの種類について話しながら収集日を確認するなど、漢字を見て、理解し、話す(発信する)ことができた。また、病院に行ったとき、受診する科を漢字から判断できるようになった。

3については、今後も(公財)神戸学生青年センターと話し合いながら継続をする。

(9) 今後の改善点について

今回は日本語ボランティア、日本語教育関係者の見学もあったが、対象は地域外国人であった。今後は、多文化共生の観点から、地域住民も一緒に参加できるプログラム内容に改善したいとかがえる。漢字に焦点を当てるが、漢字学習だけでなく、漢字の意味を理解した上で例えば、災害時の避難経路を地域住民と一緒に確認するなど、交流の場になるような取組にしていきたい。

取組の成果の発信

【名称：取組3「生活者としての外国人」のためのヘルスリテラシー～共に考え、実践に繋げる報告会～】

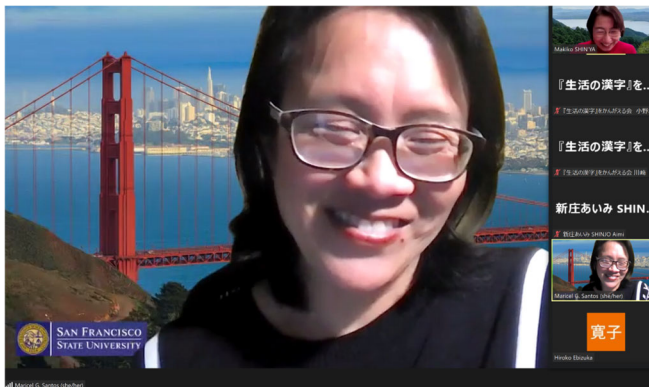
取組の目標	「生活者としての外国人」への文字学習支援の必要性を発信する。特に身近な「ヘルスケア」という視点を切り口とし、参加者と共に「外国人支援におけるヘルスケアの現状と課題」を共有することで、参加者自らも当事者の一人としてリテラシーの獲得について考え、実践につなげる会にする。		
内容	ヘルスリテラシーをテーマとし、令和6年3月13日に実践報告会を行った。会の登壇者は、マリセル・サントス氏(米サンフランシスコ州立大学教授)、竹野翠氏(NPO 法人 CHARM スタッフ)、加藤丈太郎氏(武庫川女子大学講師)の3名に加え、『生活の漢字』をかんがえる会から新矢麻紀子(大阪産業大学教授)が司会を行い、新庄あいみが実践報告を行った。申込みは91名あり、当日参加者は81名であった。		
取組による特定のニーズに対する工夫	①主に地域日本語教育コーディネーターを対象にする。 ②研修内容を「ヘルスケア」「ヘルスリテラシー」および日本語学習支援のうち「文字学習支援」とする。 ③研修機会の少ない地域等からの参加を可能にするために、オンラインで行い、学びの機会を提供するとともに、立場を同じくするコーディネーターの情報交換やネットワークづくりの場とする。		
実施期間	令和6年3月13日 から 令和6年3月13日 まで	時間数	1回3時間 × 1回 =3時間(報告会 2時間半、延長30分)
対象者	原則として日本語教育の知識・経験を有し、地域で日本語支援の実践をしている地域日本語教育コーディネーター	参加者	総数81人(事前参加申込み91人)

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【令和5年3月13日】

「生活者としての外国人」のためのヘルスリテラシー 共に考え、実践するための報告会を実施した。まず、『生活の漢字』をかんがえる会が、事業説明および今年度のヘルスリテラシーをテーマとした漢字学習支援の実践を報告し、次にマリセル・サントス氏が米国におけるヘルスリテラシー研究について報告した。まだ日本では知られていない観点などもあり、示唆に富むものであった。竹野氏・加藤氏からサントス氏に質疑した後、竹野氏が医療場面、特にHIVに直面している外国人の課題について、加藤氏が「外国人コロナワクチン相談センター」の調査から「伝え手側の視点」をキーワードにヘルスリテラシーについての実践報告があった。そして参加者から受け付けた質問について登壇者から回答とさらなる情報が提供された。



取組事例②

【令和5年3月13日】

『生活の漢字』をかんがえる会の実践報告として、「ヘルスリテラシーに焦点をあてた漢字教育の実践」と題し報告を行った。まず本事業の概要を説明したあと、次に実践例として「薬」と「病院」の事例を示した。最後に、今年度の実践から得られた学習効果の一つに「学習者が健康に関する漢字語を理解し、能動的に情報を得ようようになった」という学習者の変化の様子について説明を行った。



健康に暮らすための「生活の漢字教室」実践例「薬」と「病院」

情報源・入手・理解・評価・意思決定 → 健康 中山(2022)

ヘルスケアにかんする情報源の入手・理解・評価・意思決定(活用)の観点から、薬と病院について下記の学習目標を設定した。

★第7回テーマ「薬」

- 1) 薬の販売店に行ける。
- 2) 症状にあった薬を選びとることができる。
- 3) 購入した薬の用法を正しく理解することができる。
- 4) 用法にあった服用ができる。

★第8回テーマ「病院」

- 5) 症状が改善しない場合、病院に行き診察を受けることができる。

(2) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

「ヘルスリテラシー」という用語を知らなかったという参加者も少なくなかったなか、「ヘルスリテラシー」の日米実践者による報告を通して、参加者にその必要性を周知するとともに「生活者としての外国人」への文字学習支援の必要性を発信することができた。誰もが身近な関心事である「ヘルスケア」を切り口としたことで、参加者と共に「外国人支援におけるヘルスケアの現状と課題」を共有したといえる。参加者も日本語教育関係者にとどまらず、地方公共団体の職員、医療関係者と多岐にわたり、広く『生活の漢字』をかんがえる会の活動を周知することにも繋がった。感想アンケートでも「いい講座であった」と高い評価が得られた。参加者自らが当事者の一人としてリテラシーの獲得について考え実践につなげる契機となった、Social justice という概念が広まる必要性がある、日本語教室の中でも教える側がもっと日本の、そして各国の保健医療を学び、Health Literacy の考え方を取り入れた時間を設けることが必要だと感じた、というような声が聞かれた。これらのことから目標が達成できたと考える。

(3) 今後の改善点について

- ①研究者のメーリングリスト等への広報ができなかったため、研究者の参加が少なかった。日本語教育や多文化教育に携わる研究者も知っておく必要があるテーマと内容であったことから、広報についても多様なチャンネルを活用する必要があることが示唆された。
- ②英語話者を発表者の一人に迎えたことから、通訳を付けた。通訳を付ける講座の運営は初めてで手探りの部分が多く、通訳者との連携やコミュニケーションの難しさを感じた。また、通訳が入ることにより時間がかかるため、発表者の報告時間が短縮される、全体の時間が長くなるという、通常では気にしなくていい時間管理の課題に直面した。
- ③公開講座と本事業の報告会を兼ねたため、開催時期が全事業終了後の3月となった。そのため、参加者が本講座で得られた「ヘルスリテラシー」の知見を参加者自身の取組や次年度の事業計画に盛り込むことができなかったと考えられる。同様の会の位置付けの難しさを感じられた。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

事業の目的

日本に定住する予定の外国人、または既に地域に根ざしている外国人を対象に、ヘルスリテラシーを取り入れた漢字教室を実施する。また、ヘルスリテラシー／ヘルスケアの専門家、地域日本語教育に関わる実践者とともに、実践と課題を共有する公開講座及び本事業の報告会を行う。本事業は、これまで漢字学習支援を行ってきた実践と実績が根底にあり、さらに文字学習支援の場にヘルスリテラシーの観点を取り入れようとする新たな試みであり先進的な事業である。

以下に4つの取組と目的を説明する。

取組 2-1: 健康に暮らすための「生活の漢字教室」

これまでの事業では、生活の場面で目にする文字（漢字）の習得を目指し、「買い物」「病院」「災害」などをテーマに漢字教室を実施してきた。令和5年度は、これまでの文字学習支援のなかで「ヘルスケア」に関するトピックを中心にカリキュラムをデザインする。例えば、これまでも「買い物」をテーマにアレルギーや食品成分などの漢字語を取り上げていたが、各回の授業において健康に関連した漢字語を扱い、自身の健康に関する情報を得て活用し、病気を予防し健康的な生活を送れるよう漢字学習を通して支援する。

取組 2-2: 子育て中の外国人のためのオンライン漢字教室

保育園・幼稚園・小学校において必要な漢字語を理解し、活用できるよう子育てに特化した漢字学習支援を行う。また、漢字語を理解することで、子どもが健康的に生活できるよう支援をしていく。オンラインで授業を実施することにより、子育てというライフステージに合った学習の機会の提供を実現する。2年前に立ち上げた本取組のシラバス、授業内容、教材などのさらなる改善を行うが、令和5年度の新たな取り組みとして、親子で参加できる交流イベントを実施する。

取組 2-3: 地域に根付く「生活の漢字教室」(神戸)

大阪市で継続してきた漢字学習支援の教室を、神戸市で新たに実施する。毎日の生活で例えば健康管理のために自分に合った食品を選んだり、また災害などの緊急事態発生時に情報を得て身の安全を確保するうえで、漢字語の意味理解は重要な役割を果たしている。令和5年度にこのような外国人のための「生活の漢字」から学習する教室を神戸で実施し、(公財)神戸学生青年センターと連携して、令和6年度年度以降の「生活の漢字」教室の自立を目指

す。

取組 3:「生活者としての外国人」のためのヘルスリテラシー～共に考え、実践に繋げる報告会～

漢字教室の実践と成果を広く発信することを目的に事業報告会を開催する。また「ヘルスリテラシーと日本語学習支援」という観点から公開講座を開き、「生活者としての外国人」への健康や医療をめぐるリテラシー教育の必要性を発信する。

(2) 特定のニーズの充足に向けて試行した方法

特定のニーズ

課題 1: 地域の日本語教育において文字学習の必要性がまだ十分に認識されていない。

課題 2: 地域日本語教育の現場において、ヘルスリテラシーの重要性は認識されていても、教育実践には結びついていないのが現状である。

特定のニーズの充足に向けて試行した方法

- ・開催場所や開催方法、時間帯を変えた3つの漢字教室を実施した。

- 健康に暮らすための「生活の漢字教室」…大阪市北区、火曜日午前 9:45～11:45

- 子育て中の外国人のためのオンライン漢字教室…オンライン、火曜日午前 9:45～11:45

- 地域に根付く「生活の漢字教室」(神戸)…神戸市灘区、金曜午後 5:45～7:15

- ・3 教室のコース全体を通してヘルスリテラシーを柱としたシラバスをデザインした。

※具体的な内容は、本報告書の各取組の欄に記載した通りである。

- ・成果の発信として「生活者としての外国人」のためのヘルスリテラシー～共に考え、実践に繋げる報告会～を実施した。

※各取組における内容は各取組の「取組による特定のニーズに対する工夫」に記載した通りである。

(3) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

●本事業全体における達成状況・成果

- ・アクセスがよい大阪駅の近くや、神戸市、オンライン(全国から参加可)など、開催場所や開催方法、時間帯を変えた3つの漢字教室を実施したことにより、これまでより広い地域、幅広い層の外国人(就労者、学生、主婦、子育て中の保護者、など)が漢字教室に参加できた。

- ・他の地域日本語教室においても病院などのテーマは扱っているが、本事業ではヘルスリテラシーつまり、健康に関する様々な情報を理解し、活用することを目的に、3 教室のコース全体を通してヘルスリテラシーを柱としたシラバスをデザインし授業を実施できた。

- ・生活者としての外国人のためのヘルスリテラシー、及び実践について報告会を開催したことは、ヘルスリテラシーについての教育実践が充分でない地域日本語教育の分野において先進的な取り組みであったと言える。

●各取組における達成状況・成果

各漢字教室はそれぞれ、課題や対象者が異なるため、各漢字教室の内容に合わせてさらに細分化した目標や課題を設定した。以下に各取組の達成状況・成果を記載する。各取組の検証方法は各コース終了後、受講者を対象に実施したアンケートである。

健康に暮らすための「生活の漢字教室」

- ・受講者が食品の容器に書かれている漢字語を理解し、より健康に良いものを選択し購入できたことや、例えば「半額」という漢字語など、参加する前には気が付かなかった漢字に気づくことができたなど、「ヘルスリテラシー獲得に必要な漢字語を身につけること」というコース全体の目標に対し成果があった。

- ・漢字学習のみならず学習者同士の経験や現在抱えている心配事や問題を共有し、解決について話し合う場になるなど、学習者同士の交流の場となった。

子育て中の外国人のためのオンライン漢字教室

- ・子どもの健康や生活、病気をテーマに漢字学習を進めたことにより、家族や周囲の助けを借りながらも受講者自身

が子どもの生活や健康に関して、情報を理解し活用することへの足掛かりができた。

- ・オンラインで授業を実施することにより、子育て中の保護者でも参加しやすい学習機会を提供できた。
- ・オンライン授業でも、対面で実施した交流イベントにおいても、外国人保護者同士が子育てや自分自身について話し、交流することができた。
- ・オンライン講座の中に対面で実施する回を設けたことにより、オンラインで実施する地域日本語教室における交流のあり方やコースデザインの1つの形を提示した。

地域に根付く「生活の漢字教室」(神戸)

・学習者は漢字の成り立ち、意味、書き方などを、授業内でやり取りをしながら学び、初級の学習者でもパンフレットなどから漢字を探す、ゴミの種類について話しながら収集日を確認するなど、漢字を見て、理解し、話す(発信する)ことができた。また、病院に行ったとき、受診する科を漢字から判断できるようになった。

- ・長く地域に根差し活動を継続していける場になることを目指し、「生活の漢字」から学ぶ漢字教室を神戸市に新たに開いた。
- ・(公財)神戸学生青年センターと連携を取りながら開催し、授業を公開することで、地域日本語ボランティア、日本語教育関係者に「生活の漢字」から学ぶ方法を伝えることができた。
- ・(公財)神戸学生青年センターと何度も話し合いの場を設けた結果、今後についても教室の継続が可能となった。

「生活者としての外国人」のためのヘルスリテラシー～共に考え、実践に繋げる報告会～

- ・「ヘルスリテラシー」の日米実践者による報告を通して、参加者にその必要性を周知するとともに「生活者としての外国人」への文字学習支援の必要性を発信することができた。
- ・誰もが身近な関心事である「ヘルスケア」を切り口としたことで、参加者と共に「外国人支援におけるヘルスケアの現状と課題」を共有することができた。
- ・日本語教育関係者だけでなく外国人支援に関わる実践者、地方公共団体の関係者、医療関係者も報告会に参加があったことにより、『生活の漢字』をかんがえる会の活動を今まで以上に広く周知することができた。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

健康に暮らすための「生活の漢字教室」

- ・大阪市立総合生涯学習センターで開催するにあたり教室の確保、広報、受講者の受付など多くの協力を得た。
- ・大阪市教育委員会のコーディネーター会議にて、大阪市の識字・日本語教室のコーディネーターに対して教室の広報を依頼した。
- ・広報の連携の結果、公益財団法人大阪国際交流センター国際交流課ウクライナ避難民支援関連業務担当者に情報が届き、ウクライナからの難民が受講した。

子育て中の外国人のためのオンライン漢字教室

- ・大阪市立総合生涯学習センターでチラシの配架、配布を依頼した。
- ・(公財)神戸学生青年センターでチラシの配架、配布を依頼した。
- ・仙台観光国際協会(SenTIA)と双方のオンライン日本語教室の見学及び、職員、コーディネーターらとオンラインミーティングを実施し、文字教育に関する情報や知見の交換を行った。

地域に根付く「生活の漢字教室」(神戸)

- ・新たに神戸市で教室を開くにあたり、(公財)神戸学生青年センターには、教室の確保、広報の協力、センターで実施している他の日本語教室の情報提供など多くの協力を得た。
- ・(公財)神戸学生青年センターで開催している日本語教室の支援者の見学を受け入れた。
- ・(公財)兵庫県国際交流協会(HIA)の職員の見学を受け入れた。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

周知・広報

大阪市立総合生涯学習センター、大阪市教育委員会、神戸学生青年センター、運営委員の協力
文化庁、地域日本語教育コーディネーター、過去の養成講座の受講生のメーリングリストの活用
日本語教室の過去の受講者へ広報、SNSで広報及び活動の様子の発信
『生活の漢字』をかんがえる会のメンバーが他事業で講師を担当した養成講座等における広報
開催地域周辺の外国食材店、モスク、教会等での置きチラシ 等

事業成果の地域への発信等

「生活者としての外国人」のためのヘルスリテラシー～共に考え、実践に繋げる報告会～をオンラインで実施

(6) 今回のプログラム実施を通して得られた知見やノウハウ

- ・在住外国人のヘルスリテラシーの獲得を本事業全体の柱に据え、シラバス、毎回の授業内容、教材など全てにおいて検討し漢字教室を実施したことにより、ヘルスリテラシーの観点を取り入れた授業の実践とノウハウを得ることができた。
- ・3教室のうち、開催場所、開催方法、実施時間をそれぞれ変えることより、幅広い層の受講者を対象に漢字教室を実施できた。
- ・「子育て中の外国人のためのオンライン漢字教室」ではオンライン講座でありながら対面も取り入れることで、オンラインで実施する地域の日本語教室の交流の在り方を改めて検討した。
- ・神戸市で新たに漢字教室を開催するにあたり、神戸学生青年センター始め、地域で活動する日本語教育関係者などから多くの協力、情報を得ることができ、教室継続への足掛かりを築くことができた。
- ・「ヘルスリテラシー」の日米実践者による報告を通して、参加者にその必要性を周知するとともに「生活者としての外国人」への文字学習支援の必要性を発信し、参加者と共に「外国人支援におけるヘルスケアの現状と課題」を共有した。

(7) 改善点、今後の課題について

健康に暮らすための「生活の漢字教室」

今年度は買い物や病院などの汎用性の高い内容でカリキュラムを構成したが、来年度以降は汎用性に地域性を加えることで、地域における公的制度の享受や地域社会での共生につながるようなカリキュラムを検討したい。

子育て中の外国人のためのオンライン漢字教室

対面で実施する回を設け成果があったが、遠方の受講者は参加できなかった。

オンライン授業では特に理解や進度が遅い受講者への対応が十分にできないため、オンラインにおいてどこまでサポートが可能か考えていきたい。

地域に根付く「生活の漢字教室」(神戸)

今後は多文化共生の観点から地域住民も一緒に参加できるプログラム内容に改善したいと考えている。漢字に焦点を当てるが、漢字学習だけでなく、漢字の意味を理解した上で例えば、災害時の避難経路を地域住民と一緒に確認するなど、交流の場になるような取組にしていきたい。

「生活者としての外国人」のためのヘルスリテラシー～共に考え、実践に繋げる報告会～

広報の方法、開催時期、通訳を付けることによる影響、等の課題が見いだされた。今後、同様の会開催に際には、それらを解決できる方策を模索したい。

漢字教室全体

来年度は文化庁の本事業に申請しておらず、予算確保の目途が立っていない。今後に向けて任意団体を立ち上げ、運営体制、資金など継続可能な方法を検討しているところである。